

職場体験を通して学んだこと

棚倉小学校 6年 ひるた かな
蛭田 佳奈

みなさんは、毎日笑顔で生活できていますか。

私は、この夏休みにチャレキッズ in 棚倉に2日間参加しました。

「今日はどんな体験ができるのだろう。」私は、とてもワクワクしながらバスに乗り、老人介護施設「寿恵園」に向かいました。

今年の一月に、私の祖母は亡くなりました。認知症をわずらっていたので、介護施設にお世話になっていました。私は、週末などに両親と一緒に会いに行っていたので施設の方の仕事の様子を見かけたことがあり、何となくわかっていました。そこで今回のチャレキッズでは、もっと詳しく知りたいと思い「寿恵園」を希望しました。

寿恵園は、学校のような広い建物で、病院のようにも感じます。入り口は、車いすの人でも入りやすいように、スロープになっています。いよいよ介護施設での体験の始まりです。最初に、職員の方が施設についてくわしく説明してくださいました。認知症の方や体が不自由な方が入所するスペースや「デイサービス」といって、自分の家から日中だけ寿恵園に来るお年寄りたちが過ごすスペースなどお年寄りの方の体の状態に合わせていくつかの部所に分かれていました。

私は、偶然にも認知症のお年寄りとふれ合うことになりました。職員の方が、

「おじいちゃんやおばあちゃんは、何度も同じことを聞いてくるかもしれないけれど、その時はやさしく答えてあげてね。」

とアドバイスしてくださいました。そういえば私の祖母も私が遊びに行くと、

「かなは、何年生になったの。」

「5年生だよ。」

しばらく経つと、また、

「かなは、何年生になったの。」と同じことを聞いてきました。

その時には、

「まったくもう、さっきも同じこといったのに」と思いましたが、寿恵園にいるお年寄りの方も同じでした。

「名前は何だい。」と聞かれ

「ひるたかなです。」と答えると

「うん、うん。そうかい。そうかい。」

少し時間が経つと、また

「名前は何だい。」と聞いてきました。

「ああ、これが認知症なんだ。」とわかり、私は、やさしく答えました。しかし時には

「そんなの知らない。」と言われ、顔が熱くなるのを感じました。

お年寄りの質問に一生懸命答えたのにそんなの知らないってどういうこと？と何度も何度も心の中で繰り返しました。でも、職員の方の顔を見ると、私と違って笑顔でした。となりにいるお年寄りもみんな笑っていました。職員の方たちは、自分も楽しみながらお年寄りに関わっているのだと感じました。

私は、たまたま今日だけここにいるだけなのに。もし、これが毎日続いたらきっとイライラしてしまうかもしれない。

「さっき言ったでしょう。」

なんて、イラッとしながら言うってしまうかもしれないと感じました。

おじいちゃん、おばあちゃんと接しているときは、ニコニコと笑顔を絶やさない寿恵園の方は、本当にすごいと思いました。

私が職員の方の休憩室の前を通りかかったとき、さっきまでお年寄りのそばで笑っていた方が、とても疲れた様子で休んでいる姿が目に入りました。介護の仕事の大変さや体力的なつらさがあることを感じました。

大変な仕事なのに、お年寄りの前では、少しもつらそうな顔をせず、とびきりの笑顔でいることができるのはどうしてなのか。その理由を自分なりに考えてみました。これは、私の考えですが、寿恵園で働く方のパワーのもとになっているのは、お年寄りの楽しそうな笑顔なのではないだろうか。自分のしていることが、誰かの笑顔につながっていると思うと、人はつらくても頑張れるのではないだろうか、と。

私は、将来の職業について考えてみました。しかし、どんな仕事につきたいか、まだはっきりとは決まりません。今回の「寿恵園」での経験から、大人になった時に、私がしていることが誰かの笑顔につながるような仕事についてみたいと強く感じました。「誰かの笑顔につながる仕事」それが何であるかは今の私にはまだ分かりません。でも、そんな仕事につくことができれば、私の幸せになるんだろうなということは今回の体験を通してよく分かりました。

棚倉小学校では、「なりたい自分になるために」を目標にキャリア教育に取り組んでいます。今回のチャレキッズ in 棚倉は、私の将来について考える良い機会になりました。私も、将来、素敵な笑顔をたくさんの人に届けることができれば、どんなに幸せだろうと強く強く思いました。

「笑顔で過ごすことのできる幸せ」を皆さんも考えてみてください。